

1. 評価結果概要表

作成日

平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401105
法人名	有限会社 タワラ
事業所名	グループホーム 幸せの枝
所在地	〒814-0175 福岡市早良区田村4丁目19-24 (電話) (092)863-1556

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年10月15日	評定確定日	

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	10 人 常勤	7 人 非常勤	3 人 常勤換算 5.33 人

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	2階建ての～	1,2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(165,000 円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

登録人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2			2 名
要介護3	2 名	要介護4			1 名
要介護5	0 名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 80.8 歳	最低	74 歳	最高	85 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北口内科 大賀医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、法人代表の生家を改築して開設されており、心地よい風が流れる静かな住宅地に居している。玄関先の花壇には季節の花々がきれいに整備して植えられ、庭のウッドデッキでは、入居者が穏やかな陽射しのもと、日向ぼっこをしながらお茶を飲んだりおしゃべりしたりと、ゆったりとした時間が流れている。職員、入居者全員でテーマを決めて話しあう場「幸せ会議」を設け、入居者の希望や思いを聞いている。入居者同士も、お互いに顔馴染みとなり、おしゃべりしていることも多く、職員と入居者そして入居者同士の信頼が強く結ばれていることが感じられるホームである。正職員の離職がないことは、法人代表と管理者が協働して、職員がより働きやすい環境づくりを進めている成果として感じられる。職員が自分の家族と過す時間を十分に確保できるような勤務体制の配慮や、仕事中の休憩時間と場所の確保などへの取組みもある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「人権教育・啓発活動」や「地域の人達との交流の促進」等、前回の評価結果で課題となった項目については、評価結果後に職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。公民館等で開催される人権研修へ職員が参加していること、地域の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気を作るために、玄関先の郵便ポストを手作りの温かみのあるものにするなど、地域交流の促進など、改善に向けた具体的な取組みを見てとることができた。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、全職員で話し合いをして行っている。自己評価は全職員へ回覧しており、全職員が共通認識となるように取り組んでいる。
	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、老人会長、民生委員、家族・本人、職員の参加で2ヶ月毎に開催しており、外部評価の結果やホームに関すること、地域の情報交換も含めた内容の話し合いに取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 入居者の日々の様子などを分かりやすくまとめた「幸せ通信」を作成し、毎月、家族へ送付している。家族にはホームに対して気づいた事や相談があれば、どんなことでもすぐに言うてもらうよう、常に伝え、特に苦情では、問題が大きくなる前の段階から、ホームと家族とが十分に相談し合えるよう対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームが開設されて4～5年が経過しているので、近隣住民からはホームの存在は認知されている。昨年、ホームで開催した地域交流会を契機に、自治会長や民生委員との結びつきも深まり、地域からは敬老会の案内や校区行事への誘いかけなどの情報提供やアドバイスをもらったりと日頃からの連携がうかがえる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初、法人代表とホーム長の思いと して複数のキーワードが挙げられた。その中から 地域の中で「心のリハビリ」「終の住処」となるよう な支援をしていくことを掲げ、事業所の理念の柱 として輝いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に法人代表より必ず理念の説明がある。 また、理念の事務所への掲示や職員の名札の裏へ の記載、毎日の申し送り時の唱和など、全職員で 常に理念を確認しあう取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	敬老会などへの校区行事の誘いがあったり、地 域の清掃活動等へ利用者と参加したりしている。 4月にホームで開催した地域交流会では、三味線 が上手な方々がボランティアとして披露しに来て くれるなど、地域との交流がさかんである。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	自己評価は、全職員で全体会議の中で話し合い をして決め、全職員へ回覧し、全職員の共通認識 となるように取り組んでいる。外部評価結果で課 題となった項目については、全職員で全体会議を 行い、改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、老人会長、民生委員、家族・本人、職員の参加で2ヶ月毎に開催しており、外部評価の結果や事業概要の説明、ホームに関する事など地域の情報交換も含めた内容に取り組んでいる。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉用具に関する事など介護保険サービスの件で相談した事例がある。運営推進会議への市町村や地域包括支援センターからの参加はなく、市町村担当者などへのホームからの積極的な働きかけは、これからの課題である。		運営推進会議の内容を市町村の担当者などへ報告することをきっかけに、関係づくりに努め、例えば介護予防などへの市町村の取り組みに協力するなど、地域密着型サービスとしての積極的な連携の取り組みを期待したい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時に成年後見制度の説明を行っている。必要性がある方については、行政書士を紹介して活用できるような支援の取り組み事例がある。また、職員が外部研修へ参加し学んだ事を他の職員へ受講報告する機会を設け、共有する取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、入居者の日々の様子を分かりやすくまとめた『幸せ通信』を作成し、家族等に送付している。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、ホームに対して気づいた事や相談等があればどんなことでもすぐに言ってもらおう、常に伝え、特に苦情については、大きな問題となる前の段階から、ホームと家族共に相談し合える関係づくりに努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近1年間は、正職員の離職がない状況である。利用者、家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応する事が重要と考えており、異動や離職を必要最小限におさえる努力がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用について、年齢や性別等による制限は行われていない。人柄を重視した採用を行っている。また、職員のストレスを緩和し、無理なく生き生きと仕事を続けられるように、連続した休暇の取得や定時に退社できるような配慮がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域の公民館等で開催される人権研修に職員が参加し、事業所内で受講報告会や勉強会を実施し、人権教育や啓発に取り組んでいる。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年1回、外部研修へ参加している。また、職員が資格取得等のキャリア・アップのために研修参加する場合も、休みを調整するなどして参加の機会を確保している。研修後は、カンファレンス時に研修内容や感想を報告し、全職員で共有できるよう取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベント(餅つき)などで道具の貸し借りをしたりする時に、事業所間の相互訪問をしたり、意見交換を行っている。		他事業所職員との学習会や交流を持つことは、日々の業務では見えない新しい気づきや、緊急時などの事業所間のスムーズな連携の機会づくりと捉えて頂き、質の向上への取り組みを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学や体験入所など、馴染みの 関係づくりへの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽 を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	支援する側、支援される側という関係ではな く、職員は、入居者と一緒に裁縫や花壇の手入 れ、洗濯物たたみ等を行うことで入居者の思いや 個性を知る事に努めている。また、職員は、入居 者から諺などを学ぶ事も多く、人生の先輩である という考えのもと、入居者から教えてもらう場面 も多い。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、声かけなどにより把握に 努めている。「幸せ会議」の中で、入居者から出 された希望や思いは、職員で共有するためにケア プランへ反映されている。また、入居者をよく 知っている家族や関係者からも情報を得るように 努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケア のあり方について、本人、家族、必要な関 係者と話し合い、それぞれの意見やアイ ディアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族からは日頃のかかわりの中で、思い や意見を聞き、アセスメントを含め全職員で意見 交換やケアカンファレンスを行って、介護計画に 反映させるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要 な関係者と話し合い、現状に即した新 たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで職員が情報を確認し、家 族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了す る前に見直し、状態が変化した際には終了する前 であっても検討見直しを行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	市徘徊高齢者SOSネットワーク事業の見守りネッ トワークに登録している。近所で徘徊されていた 地域の高齢者を連れて来られ、身元が分かるま で、ホームで一緒に過ごした事例があり、地域の 要望に応える柔軟な支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の希望があるかどうか把握 している。希望がある場合は、原則、職員が受診 の付き添いを行うが、職員が対応できない場合は 家族で対応してもらうよう説明している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時などのできるだけ早い段階からの重度化へ 向けた説明を家族等に行っている。重度化の時期 を迎えた場合は、家族へホームとして対応できる 最大のケアを率直に伝え、本人や家族、ホーム、 かかりつけ医等と連携しながら話し合いを積み重 ね対応方針を定め、信頼関係のもとに対応してい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	全体会議や日常のかかわりの中で、職員の意識向 上を図るとともに、入居者の誇りやプライバシー を損ねない対応の徹底を図っている。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしてのおおまかな一日のスケジュールは あるが、それに縛られることなく部屋でゆっくり 過ごす方、入居者同士で談笑する方など、思い思 いの一日を過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	入居者の好みについては、契約時に伺っている。 職員と入居者が同じテーブルを囲んで、楽しく食 事ができる雰囲気づくりも大切にしている。職員 が入居者にやさしく声かけしながら、入居者の ペースに合わせ、好きな場所で食事を取ることが できる取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方までの時間帯で、希望する時に入浴 できる。くつろいだ気分で職員と1対1での会話を 楽しみながら、入浴していただいている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器の後片付け、雑 巾づくりやボタン付けなどの裁縫、花壇の手入れ など一人ひとりのできる力を発揮してもらえよ うな場面づくりの支援をしている。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	入居者の趣味や希望を取り入れ、どんたく見学や 花見など行事計画を立てて出かけている。また、 季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながる ように近所の公園まで毎日散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠している。玄関ドアの開閉によるブ ザーを設置し、入居者の様子をよく観察し、外出 傾向時には、職員と一緒に付き添って外出するな どの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年1回の災害訓練と早良消防署主催の防災に関す る研修に参加している。地域への協力体制につい ては、運営推進会議でも協力を呼びかけているが 消防訓練までの参加はない。		運営推進会議時の継続的なお願いや訓練時の近 隣住民の参加など、いざという時に地域の協力 体制が得られるような働きかけを今後も続けて 行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	毎食の摂取量を把握し、定期的に管理栄養士から アドバイスを受けている。水分摂取の声かけを状 況に応じて行なうなど、水分不足にならないよ うな工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	窓から入る自然の風が心地よくホーム内を流れ、 入居者がゆっくりと過ごしている光景が見られ た。テレビは点けっ放しではなく、お互いの会話 が十分聞き取れる環境作りがされている。食事の 準備をしている時間には、台所からの美味しそ うな匂いが流れてくるなど、居心地のよい雰 囲気づくりがある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、家具やテレビ、畳など、入居者に とって心が落ち着く、馴染みのものが持ち込ま れるなど、安心して居心地良く過ごすための居室 作りの工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号